

三菱重工、インフォシス主導の JV である HIPUS 社に参画

HIPUS 社を通し、デジタル調達プラットフォームを活用し企業がビジネス工程を変革するスピードを加速

バンガロール（インド）及び東京 - 2025 年 4 月 17 日：

次世代デジタル・サービスおよびコンサルティングの世界的リーダーであるインフォシス(NSE, BSE, NYSE: INFY)は、本日、三菱重工業株式会社がインフォシス主導の合併会社 HIPUS 社に出資することを発表しました。これにより、日本国内でのインフォシスの存在感をさらに高めてまいります。三菱重工業は、エネルギー、スマートインフラ、産業用機械、航空機及び防衛産業の事業を展開する世界有数の総合重工業メーカーであり、日立製作所、パナソニック株式会社、パソナ等と協業しています。

HIPUS 社は 2019 年にインフォシス、日立製作所、パナソニック、パソナグループにより Joint Venture としてスタートし、当社が同社株の過半数を取得しています。アウトソーシングやこのカテゴリにおけるノウハウを活かし高品質なエンドツーエンドの調達プロセスを実現、日本の企業向けに次世代のデジタルプラットフォームを支援します。

三菱重工業は長年にわたり HIPUS 社ユーザーでしたが、インフォシスから 2%の株を取得することで、その関係をさらに深めています。同社は、この出資を通してこの領域におけるビジネス機会の更なる獲得を目指します。

インフォシス BPM、マネージングダイレクター兼 CEO 及び HIPUS 社、取締役 Anantha

Radhakrishnan は、「インフォシスと HIPUS 社にとって日本は、現在も今後も戦略的な市場です。我々は、この領域におけるプレゼンスを着実に高めてまいりました。三菱重工業社様との協業により、日本でお客様とより強い信頼関係を構築し、ビジネスプロセスのデジタル変革ジャーニーをさらに加速させることができます。三菱重工業株式会社様を HIPUS 社にお迎えできて大変光栄です。」と述べています。

三菱重工業株式会社バリューチェーン本部長の三宅功氏は、「データ駆動戦略を通して調達業務をレベルアップしていくという弊社の方針の中、HIPUS 社の高度な分析力やご支援が弊社の調達オペレーションを大きく改善し、より情報重視の意思決定が可能になり、社全体により大きな価値を生み出すことができると期待しています。」と述べています。

HIPUS 社代表取締役の浅海清氏は、「三菱重工業株式会社様は、HIPUS 社にとって多種多様なサービスを受けていただく大切なお客様となっています。弊社では日本以外の地域でも三菱重工業様のサービスをご

提供し、世界市場におけるインフォシスの存在感、アウトソーシングや調達サービスの強みを活用しています。三菱重工業様が HIPUS 社への出資をご決断くださったことを大変光栄に存じます。今後、影響力の大きい協業をしていけることが楽しみです。」と述べています。

株式の譲渡は、慣習的な完了条件によりますが 2026 年度第 1 四半期(2025 年 6 月 30 日を締日とする四半期)の締結を予定しています。

三菱重工業グループについて

三菱重工業グループは、エネルギー、スマートインフラ、産業用機械、航空機及び防衛産業の事業を展開する世界有数の総合重工業メーカー。最新技術と豊富な知見を組み合わせ、新規性のある総合ソリューションを展開。脱炭素世界の実現、QoL の向上、より安全な世界の実現に寄与しています。詳細は、同社ウェブサイト(www.mhi.com)をご確認ください。

HIPUS 社について

HIPUS 社は日立グループで長年培った調達・購買ノウハウからビジネスプロセスの変革を促進し、総合的な調達ソリューションを提供。2019 年 4 月、インフォシスのグループ企業となって以来、グローバルな知見と日本のスキルを調達プロセス、コンサルティング、解析、生成 AI およびその他のデジタル技術サービスに組み合わせた最新の先進サービスを提供。詳細は、同社ウェブサイト(www.hipus.com)をご確認ください。

インフォシスについて

インフォシスは、次世代のデジタルサービスとコンサルティングのグローバルリーダーです。30 万人以上の社員が人々の潜在能力を引き出し、人々、企業、コミュニティに新たな機会を創出するために働いています。56 カ国以上のクライアントをサポートし、40 年以上の経験を活かしてクラウドや AI を用いたデジタル変革を推進しています。当社は、AI を中核に据え、大規模なアジャイルデジタルを活用してビジネスを強化しています。イノベーションエコシステムからデジタルスキル、専門知識、アイデアを移転することで、常に接続された学習を推進し、継続的な改善を図ります。また、多様な人材が活躍できる包括的な職場環境を提供し、ガバナンスが行き届いた環境に優しい組織を目指しています。

Infosys (NSE、BSE、NYSE : INFY) が貴社の次なる航海をどのように支援できるかについては <https://www.infosys.com/jp/japan/> をご覧ください。

セーフハーバー

本リリースにおける、当社の将来の成長見通し、または将来の財務・営業実績に関する特定の記述は、1995年私募証券訴訟改革法の「セーフハーバー」規定の適用対象となることを意図した将来見通しに関する記述であり、このような将来見通しに関する記述と実際の結果または成果が大幅に異なる可能性がある、多数のリスクおよび不確実性を伴います。これらの記述に関連するリスクおよび不確実性には、当社の事業戦略の実行に関するリスクおよび不確実性、人材獲得競争の激化、人材の確保と維持、賃金の上昇、従業員の再教育への投資、ハイブリッド型勤務モデルの効果的な実施能力、経済の不確実性および地政学的な政治情勢、ジェネレーティブ AI などの技術的混乱や技術革新、移民規制の変更を含む複雑かつ進化する規制環境、当社の ESG ビジョン、資本配分方針、市場での地位、今後の事業、利益率、収益性、流動性、資本資源、買収を含む企業行動、サイバーセキュリティ問題などです。実際の業績や結果が将来の見通しに関する記述によって暗示された内容と異なる可能性がある重要な要因については、2024 年 3 月 31 日に終了した会計年度に関するフォーム 20-F による年次報告書を含む、米国証券取引委員会への提出書類でより詳細に説明されています。これらの書類は、www.sec.gov でご覧いただけます。インフォシスは、証券取引委員会への提出書類や株主への報告書に含まれる将来の見通しに関する記述を含め、書面および口頭による将来の見通しに関する記述を随時行う場合があります。当社は、法律で義務付けられている場合を除き、当社または当社を代表して行われる将来の見通しに関する記述を随時更新する義務を負いません。

お問合せ先

インフォシスリミテッド 東京オフィス

担当 安藤 jo_ando@infosys.com